

トミー・ヒックスの夢 (終末のビジョン)



Tommy Hicks Dream

End Time Vision

目 次

第1章	1961年7月25日の朝のビジョン・・・・・・・・・・・・・・・・	3
第2章	大きな巨人・・・・・・・・・・・・・・・・	5
第3章	「私の言葉どおり、汝は完全な者とされよ！」・・・・・・・・	7
第4章	この巨人の変貌をみる！・・・・・・・・・・・・・・・・	9

第1章

1961年7月25日の朝のビジョン

これは、アメリカの伝道者トミー・ヒックス（1954年のアルゼンチン・リバイバルの主要人物）に与えられた驚くべきビジョンです。

キリストの御身と終末のミニストリーのビジョン

私のメッセージは、7月25日、カナダのウィニペグでの午前2時半ごろから始まります。私はほとんど眠りませんでした。

私に現れたビジョンは、1961年7月25日の朝、3回、正確に、詳細なものでした。

それは、1961年7月25日の朝のことでした。私はその啓示に心を揺さぶられ、感動しました。この啓示によって、キリストの御身、そして終末の宣教に対する私の見解は完全に変わりました。

「終末の奉仕の時にイエス・キリストの教会がこれまで与えられてきた最も偉大なものをお与えください！」眠りに入ったのは未だ先のことでした。

神が終末にご自分の民に与えようとしておられるものを理解するのは、とても難しいことです。

私は数週間前、アフリカのナイロビにいる現地の伝道者の一人から手紙を受け取りました。この伝道者と妻は、タンガニーカに向かう途中でした。彼らは読むことも書くこともできませんでしたが、私たちは2年以上にわたって彼らを支援してきました。タンガニーカの領土に入ると、彼らは小さな村に出くわしました。疫病が村を襲ったため、村全体が避難していました。彼らは泣いている原住民に出会いました。原住民に尋ねると、突然死んだ父親と母親のことを話しました。死後3日経っていたので、原住民は立ち去らなければなりません。小屋の中に入るのが怖かったのです。その小屋に死体を置いていくつもりだったので。伝道者は振り返って原住民に尋ねると、原住民はその小屋を指差しました。原住民は戻るのを恐れました。伝道者と原住民はこの小さな小屋に行き、原住民がいた場所に入りました。

伝道者はただ主イエス・キリストの御名によって手を伸ばし、原住民の父親と母親の名を語り、

「主イエス・キリストの御名において、あなたがたの体にいのちが戻るように命じます。」と祈りました。するとたちまち イエス・キリストを救い主として知らなかったこの二人の異教徒は、立ち上がり、すぐに神を賛美し始めました。神の霊と御力がその人たちの人生に入ったのです。

私たちには不思議な現象に思えるかもしれませんが、これが終末の宣教の始まりなのです。神は、何もない人たち、無名の人たち、聞かれない人たちに神の霊の油注ぎを与えようとしておられます。

使徒の働き 2:3 に「わたしの霊をすべての人に注ぐ。」とあります。私たちは、神が言われた

意味を理解できたでしょうか。

そして、ヨエル書を読みましょう。

「シオンの子らよ。あなたがたの神、主にあって、楽しみ喜べ。

主は、あなたがたを義とするために、初めの雨を賜り、大雨を降らせ、前のように、初めの雨と後の雨とを降らせてくださるからだ。」(ヨエル書 2:23)

第2章 大きな巨人

この終わりの日に、神の力の二倍の祝福を民に与えようとしておられます！

眠っていた私に幻が現れたとき、私は突然、自分がとても高いところにいることに気づきました。私がどこにいたのかはわかりません。しかし、私は地上を見下ろしていました。突然、地球全体が私の視界に入りました。あらゆる民族、あらゆる種族、あらゆる言語が、東から、西から、また北から、南から私の目の前に現れました。私はすべての国と多くの都市を確認しました。目の前に広がる大いなる光景を見て、私はとても恐れおののきました。そして世界が見えてきたその瞬間、稲妻と雷鳴が始まりました。稲妻が地表を照らしたとき、私の目は下を向きました。私が北を向いたとき、突然、大きな巨人のようなものを見ました。私はその光景に困惑しそうになりました。それはあまりに巨大でした。その足は北極まで届きそうで、その頭は南極まで伸びていました。その腕は海から海へと伸びていました。これが山なのか、それとも巨人なのか、私にはわかりませんでした。彼は生きたいと願っていましたが、彼の体は頭から足まで瓦礫で覆われていました。

その巨人は体を動かし、時には起き上がることもできました。そのとき、何千もの小さな生き物がこの巨人から逃げ出しました。巨人が落ち着くと、また戻ってきました。突然、この大きな巨人が天に向かって手を上げたとき、何千もの生き物がこの巨人から逃げ出したように見えました。この巨人から逃げ去り、夜の闇の中に入っていくように見えました。

ゆっくりと、この大きな巨人は起き上がり始め、起き上がると同時に、彼の頭と手は雲の中に入っていくと、瓦礫と汚物から身を清めたように見えました。

そして、主を賛美するように両手を天に上げ始めました。その両手は雲にまで達しました。突然、すべての雲が銀色になりました。

私はこの現象を見ていました。しかし、この現象が何を意味するのか理解できませんでした。私はその現象を見て、心を揺さぶられました。

「主よ、この意味は何ですか？」

眠っていても主の臨在を感じることができました。

その雲から突然、液体の光の大粒が降ってきました。そしてゆっくりと、ゆっくりと、この巨人は溶けていき大地そのものに沈み始めました。

溶けていく巨人を見てみると、突然、その巨人は何百万もの人々になりました。

何百万もの人々が地表に溢れました。私は目の前の光景を見たとき、

世界中の人々が立ち上がり手を上げ、主を賛美しました。

その瞬間、天から轟くような大雷が鳴り響きました。

私は目を天に向けました。私の生涯で見たことのないような輝きを放っていました。

顔は見えませんでした。どういうわけか、主イエス・キリストが御手を伸ばされました。

そして、その御手を、ひとりに、またひとりに、またひとりにと伸ばされました。
神の力強い油注ぎが人々の上にもたらされました。その人たちは主の御名によって進み出しました。
私はそれをどのくらい見ていたのかわかりません。何日も、何週間も、何カ月にも及んだように思われました。

第3章

「私の言葉どおり、汝は完全な者とされよ！」

しかし、そこには悲劇がありました。神の油注ぎと神の召しを拒む人々が大勢いました。私は見ました。私が知っている男女がいました。神の召しを受けるに違いないと感じた人たちでした。しかし、神がこの人に向かって手を伸ばし、あの人に向かって手を伸ばしたとき、彼らはただ頭を下げ、神の召しを拒み始めました。後ずさりする者たちは、闇の中に入っていくように見えました。暗黒が彼らをどこまでも飲み込んでいくようでした。

私はそれを見ながら当惑しました。

アフリカ、イギリス、ロシア、中国、アメリカ、世界中の何十万という人々が、神の油注ぎを受けました。彼らは主の御名によって前進しました。私はこのような男女を見ました。彼らは溝を掘る人であり金持ちも貧乏人もいました。麻痺や病気、目や耳の不自由な人たちを見ました。主はその人たちに油注ぎを与えようと伸ばされると、彼らはよくなり、癒されて出て行きました！

そして、これこそが奇跡なのです！その人たちは、主がなされたのとまったく同じように手を伸ばしました。彼らの手には、同じ液体の炎があるように見えました。彼らは手を伸ばしながら、こう言いました。

「私の言葉どおり、汝は完全な者とされよ！」

この人たちがこの力強い終末のミニストリーを続けているとき、私はそれが何なのか完全には理解できませんでした。

私は主を見て言いました。すると主は言われました。

「わたしは カイガラムシ、ヤスデ、イモムシが滅ぼしたものをすべて回復する。わたしの民よ、終末の日には、このようにする。出て行け。力強い軍隊のように、地の面を覆い尽くすだろう。」

私はこの高みにいて、全世界を見渡すことができました。私は彼らが地表を行き来するのを見ました。突然、アフリカに一人の男が現れました。おそらく彼はロシアか中国かアメリカか、あるいは他の場所にいたのでしょう。その逆もありました。火の中、疫病の中、飢饉の中にいました。これらの迫害は、何も彼を止めることはできませんでした。怒り狂った暴徒たちは、剣や銃を持って彼に迫りました。イエスのように、彼は 群衆の中を通り過ぎました。主の御名によって進み出ました。病人はいやされ、盲人の目は開かれました。長い祈りはありませんでした。私はこの中に教会や教派を見聞きしなかったことに気付きました。

主の御名によって行ったのです。ハレルヤ！

彼らは、終末の時代におけるキリストのミニストリーとして、すべてのことにおいて前進し、地上の多くの人々に奉仕していました。

この地上にいる何万人、何百万人という人々が主イエス・キリストのもとに集まりました。それはとても栄光に満ちたものでしたが、反抗する者たちもいたように思われました。メッ

セージを伝える働き手を攻撃しようとした。

神はこの最後の時に、世界がかつて経験したことのないような表明を世界に与えようとしておられます。その人たちは、あらゆる階層の人たちで、学位など何の意味もありません。私は、これらの働き手たちが地表を越えていくのを見ました。一人がつまずいて倒れると、別の者がやってきて、彼を抱き起こし抱き上げます。

そこには "大きな私" と "小さなあなた" はなく、すべての山が低くされ、すべての谷が高くされました。それは、神の愛であります。彼らはともに働き、ともに生きます。

その光景は、私がこれまで知っている中で最も輝かしいものでした。イエス・キリストは彼らの人生の主題でした。

私がこの光景に立ち尽くし、眺めているうちに、彼らはさらに歩み続け、月日が流れていくようでした。私は涙を流し、時には笑いました。それはとても素晴らしいことでした。

第4章

この巨人の変貌をみる！

この最後の終末の時代に、この人たちが全地球の至るところで、私がまさに天から見ていたとき、この液体の光の大洪水が大きな会衆に降り注ぐように見えたときがありました。神の霊が彼らの上に臨んだとき、その会衆は何時間も、何日間も手を上げて神を賛美しているように見えました。神は言われました。「私の霊をすべての肉体に注ぐ。」そして、この力、神の油注ぎ、神の奇跡を受けたすべての男と女に、神の霊が注がれました。神の奇跡には終わりがありませんでした。

私たちは奇跡について話してきました。しるしと不思議についても話してきました。

しかし、今朝、4時にもう一度現地の伝道者からの手紙を読んだとき、私は涙を禁じ得ませんでした。これは、ひとりの人の"行い"の始まりの証拠に過ぎません。

「主イエス・キリストの御名において、あなたの体に生命を注ぎ込むように命じます。」と私は膝をついて祈り始めました。主よ、私はこの時が間もなく来ることを知っています。

そしてまた、この人々が地表を歩き来しているとき、次のような大きな迫害が起こりました。大迫害があらゆる角度から迫ってくるように思われました。突然、また大きな雷鳴が鳴り響きました。そして、私は再びその御声を聞きました。

「これは私の民だ。これが私の最愛の花嫁だ。」

私は地上を見渡しました。山々が見えました。墓が開かれ、世界中の人々、あらゆる時代の聖徒たちが蘇りました。そして、彼らが墓から起き上がると突然、あらゆる方角から人々が集まってきました。東からも西からも、北からも南からも。

この巨大な体を再び形成しているように見えました。キリストにある死者が先に蘇ったように見えたので、私にはほとんど理解できませんでした。あまりに驚くべきことでした。夢にも考えもしなかったことです。

しかし、この肉体が突然形成され、再び形を取り始めたとき、この強大な巨人の姿に再びなりましたが、今度は様相が違っていました。それは、最も美しく華やかな白に身を包んでいました。その衣服にはシミもシワもありませんでした。あらゆる時代の人々がこの体に集められ、ゆっくりと、ゆっくりと、その体が天に向かって形作られ始めました。すると突然、天の上から主イエスが来られ、頭となられた。

「これは私が待ち望んでいた最愛の花嫁である。」火に焼かれても、彼女は出て来ます。

そのとき、私の目は突然、北の果てに向けられました。一見、破壊された建物のように見えました。その時、私は再び第四の声「今、わが怒りが地の面に注がれる」を聞きました。全世界の果てから、神の怒りが注がれているように見えました。私はそれがついさっき起こったことのように覚えています。町々や国全体が滅亡していく恐ろしい光景を目の当たりにして、私は震え上がりました。人々の泣き叫ぶ声が聞こえました。人々は洞窟に入りながら泣いているように見えました。

彼らは水に飛び込みましたが、水は彼らを溺れさせませんでした。彼らを滅ぼすものは何もありませんでした。彼らは命を絶とうとしましたが、それはできませんでした。

そしてまた、私はこの輝かしい光景に目を向けました。美しく白く輝く衣服に身を包んで、ゆっくりと、ゆっくりと、それは大地から浮き上がり始めました。

私は目を覚ましました。「私はなんという光景を見たのだろう！」

終末のミッション、最後の時を。再び7月27日、午前2時30分のことです。

同じ啓示、同じビジョンが再び訪れました。私たちがその終わりの時に生きていることを悟り、私の人生は変わりました。世界中で、神はこのミニストーリーで男性や女性に油を注いでおられます。それは教義でも、教会主義でもありません。それはイエス・キリストです。彼らは主の御言葉を述べ、「私は幻の中で何度もそれを聞いた！」と語るでしょう。

トミー・ヒックス